

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：防災費 目：消防指導費

事業名 救急救命士追加講習費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 消防課 消防係 電話番号：058-272-1111(内2881)

E-mail：c11193@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,843 千円 (前年度予算額：1,907 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,907	0	0	0	0	0	0	0	1,907
要求額	1,843	0	0	0	0	0	0	0	1,843
決定額	1,843	0	0	0	0	0	0	0	1,843

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

救命率向上のため、平成26年1月に救急救命士法施行規則が改正され、「救急救命士の心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与」が平成26年4月1日から一定の要件のもと可能となった。

当県では、国の定める講習を県内の救急救命士が受講できるよう、平成27年度から消防学校において処置範囲拡大追加講習を実施し、要件を満たす救急救命士の養成を進めており、来年度も引き続き実施する。

(2) 事業内容

救急救命士の処置範囲拡大により認められた特定行為(低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与及び心肺機能停止前の静脈路確保と輸液)に係る、2日間の追加講習を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

消防組織法第29条により、消防職員の教育訓練、市町村の行う救急業務の指導に関する事項は、県の責務である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	704	
旅費	220	
需用費	281	
委託料	638	
合計	1,843	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 国・他県の状況

愛知県・三重県においては平成27年度に全県域で運用を開始している。（当県においても全域で開始済み。）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

救急現場から医療機関に傷病者が搬送されるまでの間において、医学的観点から救急救命士を含む救急隊員が行う応急処置などの質を保証するためには、応急措置の常時指示体制、事後検証体制、教育体制の充実を図ることが必要である。

また、救急救命士の処置範囲が拡大していく中で、救急隊員の知識・技能の向上はこれまで以上に重要になっていることから、救急活動の高度化に向けた教育訓練体制の充実強化を進めていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性の心肺停止症例の1ヶ月後生存率					14%	
②一般市民により心肺停止の時点が目撃された心原性の心肺停止症例の1ヶ月後社会復帰率					11%	

○指標を設定することができない場合の理由

R3年度の実績については、総務省消防庁より数値が示されていないため。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>○「血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与及び心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実施」に関する追加講習</p> <p>・第1回 12月17、18日 受講者24人</p> <p>○「血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与及び心肺蘇生停止前の静脈路確保と輸液の実施が可能な救急救命士」を養成したことにより、救急活動の高度化が図られた。</p>
	<p>指標① 目標：___ 実績：11% 達成率：78%</p>

令和3年度	<p>○「血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与及び心肺機能停止前の静脈路確保と輸液の実施」に関する追加講習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 6月24、25日 受講者24人 ・第2回 8月5、6日 受講者21人 ・第3回 12月8、9日 受講者23人 <p>○「血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与及び心肺蘇生停止前の静脈路確保と輸液の実施が可能な救急救命士」を養成したことにより、救急活動の高度化が図られた。</p>
	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p>
	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>人間は呼吸が止まると数分で死に至るため、いち早く救急現場に駆けつける救急隊が傷病者の気道を確保し、呼吸管理を行うことや、心肺停止前の重症者や低血糖発作症例の傷病者に輸液やブドウ糖溶液の投与を行うことは、救命率の向上のために重要である。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 1	<p>高度な救急救命措置を行える救急救命士を着実に養成していくことが、病院前救護体制の充実につながり、傷病者の救命率の向上に寄与するものであり、追加講習の実施は有効である。</p>
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	<p>各消防本部の救急救命士の採用や養成状況を勘案して計画的に講習等を実施しており、効率化を図っている。</p>

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>救急救命士が心肺停止前の傷病者に対し静脈路確保や輸液を行うことは、救命率の向上に寄与する一方でリスクが高いため、事後検証やリスク管理を確実に行う必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
救急救命士が行える処置行為の範囲は随時拡大されており、また、その内容も適宜変更されている。これらに適切に対応し、質の高い救急救命活動が行えるよう引き続き実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	